



第3回三重地方会 活動報告

テーマ:「医師事務作業補助者として大事なスキル」

開催日時: 令和2年2月15日(土) 10:30~15:30

会 場: 独立行政法人国立病院機構 三重中央医療センター附属看護学校

令和2年2月15日(土)に、日本医師事務作業補助研究会 第3回三重地方会が当院附属看護学校において開催され、県内外の実務者を中心に約50名が参加し、和やかな雰囲気の中、熱心にグループワークや講義に取り組みました。

開会の挨拶では、三重中央医療センター院長の田中滋己先生が、“以前は医師事務作業補助者を必要としなかった医師が、今では必要不可欠くらいになっている”ことなどを話され、医師事務作業補助者は医師からも期待されていると励ましていただきました。



グループワーク『書類作成～みんなで一緒に考えましょう～』では、先ずは各グループメンバーが他己紹介するというアイスブレイクから始まりました。初めは戸惑いもあったようでしたが、直ぐに打ち解けて和やかな雰囲気となり、その雰囲気のままグループワークに移っていきました。グループワークでは、



当研究会 愛知・岐阜支部の小島支部長が、「業務を進める上では、情報共有が大切なので、悩みや工夫していることなど書類作成に限らず話し合しましょう」と話され、その後、各グループで活発な意見交換等がなされて、あっという間に時間が過ぎていきました。

ランチョンセミナー『薬にまつわる基礎知識について』では、三重中央医療センター薬剤部主任の山本高範先生が、薬の相互作用、ジェネリック医薬品と配合剤、災害時の薬のことについて話され、普段耳にしている言葉ではあっても詳しくは知らないことを具体的に解りやすく説明いただきました。

また、医師事務作業補助実施者からの実践報告では、三重中央医療センター臨床支援室 MA サブリーダーの西村文子さんが、心臓血管外科における NCD 登録について話されました。NCD 登録は専門知識が必要となる業務であり、医師の協力を得ることも重要であると感じました。

さらに、『コーチング心理学を活用した医師とのコミュニケーション術』では、有限責任監査法人トーマツ アドバイザリー事業部の星 剛史先生が、コミュニケーション術やコーチングスキルについて、コミュニケーションを取りたい相手の傾向(タイプ)と自分の違いを知ることが大切だと話され、実際に各自が自己の傾向(タイプ)を認知するグループワーク等を体験し、楽しみながら理解することができました。



最後に、当研究会の矢口理事長が研究会設立の経緯や取組などについて話され、閉会となりました。

医師事務作業補助者の仕事は確立されていない部分があり、それ故に悩むことも多くありますが、今回の地方会に参加し、同じように日々悩み、工夫しながら業務に取り組んでいる仲間がいること、また医師事務作業補助業務の可能性を感じることができたことで、もっと頑張ろうという気持ちになりました。これからも地方会などへの参加を通して、医師事務作業補助者としてのスキルの向上やモチベーションアップにつなげていきたいと考えています。



臨床支援室 サブリーダー 田中 佑季